

平成29年度第2回 精神障害者地域移行推進専門部会議事録

日時 平成29年8月25日(金)18時～20時

本庁舎5階大会議室

出席者：渡邊部会長、三好副部会長、浅井委員、石渡委員、岡田委員、奥山委員、  
亀山委員、金田一委員、桑田委員、國分委員、千葉委員、西村委員、深見委員、  
谷下田委員

(事務局)

ただいまから、平成29年度第2回精神障害者地域移行推進部会を開催いたします。  
まず始めに、お手元の資料の確認をお願いいたします。それぞれの資料の右上には  
順番に資料ナンバーを振ってありますので、もし、不足等がありましたら、お申し  
出ください。なお、多勢委員、村山委員に置かれましては本日欠席との連絡をいた  
だいております。それでは、議題に入る前に、吉田障害者福祉推進課長からご挨拶  
申し上げます。

(障害者福祉推進課長あいさつ)

障害者福祉推進課長の吉田でございます。開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。  
本日は御多忙の中、そして大変お暑い中ご出席いただきましてありがとうございます。  
前回の7月10日の部会においては、国の基本方針や、総合計画、現計画の進捗状況に  
ついて説明させていただきました。今回は、前回の議論を踏まえた次期計画の素案の取  
組みの方向性について議論いただくと同時に、基盤整備量の算定について説明させて  
いただきます。本日も忌憚のない御意見を賜りますようお願いいたします。どうぞよろし  
くお願いいたします。

(事務局)

それでは、ここからは、渡邊部会長に進行をお願いします。どうぞよろしくお願  
いします。

(渡邊部会長)

渡邊です。よろしく申し上げます。では、議題(1)「第六次千葉県障害者計画の素  
案について」事務局から説明をお願いします。説明の後、御意見等をお願いしたい  
と思います。それではお願いします。

## ○精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて

(事務局より説明)

(渡邊部会長)

何か御意見御質問等ございましたらお願いします。

(浅井委員)

3点ほどあります。

①精神保健福祉センターでのピアサポートをテーマとした交流会は良いと思うが、ただの交流会に留まらず、知識やスキルを維持・向上させる機会とした方が良いのではないか。

②地域移行定着病院について 数がなかなか伸びていかないということですが、どの病院も地域移行に関する取組みを行っていて、ただ認定を受けているか受けていないかの違いかと思われる。認定数が増えていかない要因として、認定を受ける病院にとってメリットがないからではないか。受診する医療機関を選択する際に、認定病院を県のホームページ等で確認せず、医療機関を直接調べて選択するケースが多いと思われる。県のホームページに載せるだけでなく、認定マークをつけて、外来患者等にもわかるようにしたらどうか。(千葉県のシンボルであるチーバ君など)

③措置入院者の退院支援について 精神保健福祉法の法改正が進まない。衆議院を通れば来年の春から実施予定になるため、何らかの取組みを考えた方が良いのではないか。

(國分委員)

家族は病院だけを頼りにしていることが多く、グループホームやホームヘルパー等の認識が薄い。家族・家族会に向けた地域移行に関しての研修等を実施してもらえないか。

(桑田委員)

高齢の入院患者 65歳以上の方が長期入院の中で多いなかで、介護との連携が必要ではないか。「居宅介護」や「ヘルパー」というキーワードを入れたらどうか。

(三好委員)

患者がどこが協力病院なのかわかっていないと意味がない。医療と福祉の連携、地域包括ケア高齢者を含めた会議や研修が必要になってくる。圏域コーディネーター会議に高齢者を含めた研修や会議をしたらどうか。

地域から見ると、具合が悪い時だけ病院へ行っても入院させてくれない場合もある。犯罪につながる場合もある。医療側に地域移行に対する取組みをどうわかってもらうのが重要ではないか。

質問：遠隔地について 変更した点を教えてほしい。

(岡田委員)

地域への理解がどこまで進んでいるのか。ヘルパーさんは高齢者の対応にまわっている。グループホームではなく地域に移行してほしい。住民の理解がどこまで進んでいくのか。住民へのアプローチ方法を見直したらどうか。関係者だけでなく、地域住民に理解してもらう普及啓発活動を行ってほしい。

(谷下田委員)

グループホームから地域移行する方は少ない。何か対策はないか。成田市では独自で体験型支援を始めた。患者が地域の中で何度もチャレンジできる機会をもっと与えられないか。

(亀山委員)

グループホームから就労につなげるのが難しい。ピアサポートだけではなく、チームとなって患者の支援が必要ではないか。

(石渡委員)

精神患者は退院しても再入院する方が多いと思う。地域移行へのハードルは高い。患者の立場を理解してほしい。

(渡邊部会長)

事務局から何か補足等あるか。

(事務局)

三好委員からの遠隔地支援に関する質問について  
今まで旅費だけを県から支払っていたが、遠隔地支援に必要な経費について委託事業所に支払いを行うこととした。

(三好委員)

委託事業所ではない場合、遠隔地のため断る場合がある。委託事業所以外にも支払いがあれば助かる。

(事務局)

浅井委員の認定病院に関する意見について

認定病院 昨年11病院認定。各報道機関には情報提供し(新聞等)、県民の方からどこの病院が指定されているのか等何件か問い合わせがあった。認定したことによる病院のメリットもあると考える。今後、認定の数を増やすとともに、病院にメリットが生まれるよう取り組んでいく。

地域包括ケアシステムについて

訪問看護や高齢者、さまざまな関係者とともにケアシステムを構築していきたいと考えている。協議の場に参加する人は制限せず、その地域に必要な参加者で構成してほしいと考えている。

### ○精神科救急医療システムについて

(事務局より説明)

(渡邊部会長)

何か御意見御質問等ございましたらお願いします。

(浅井委員)

現在身体合併症に対応できる病院名はどこか。

(事務局)

国府台病院、成田赤十字病院、旭中央病院、袖ヶ浦さつき台病院、亀田総合病院の5病院。

(國分委員)

夜間休日の保健所対応は精神科救急医療の変化と関連するのか。

(事務局)

保健所が閉庁している夜間休日の警察からの通報対応を、以前までは保健所が時間外対応していたが、平成27年度より精神通報対応班が一括して対応することとなり、より円滑に業務を行うことができるようになった。

○高次脳機能障害、ひきこもりについて

(事務局より説明)

(渡邊部会長)

何か御意見御質問等ございましたらお願いします。

(桑田委員)

18歳以下のひきこもりについて心のケアが必要。中学校や高校に精神に関する講座を開く等、自分が精神障害でもおかしくないという認識をもってほしい。

(岡田委員)

精神障害の方がいるという認識を持ってほしい。健康教育の一環に精神障害に関することを含めたらどうか。

(國分委員)

家族会からも学校教育に精神障害に関することを含めてほしいと要望している。

(渡邊部会長)

続きまして、議題(2)「地域の精神保健医療福祉体制の基盤整備量(利用者数)について」事務局から説明をお願いします。説明の後、御意見等をお願いしたいと思います。それでは説明をお願いします。

(事務局より説明)

(渡邊部会長)

基盤整備量が大きくなるとどういった影響があるのか。

(事務局)

基盤整備量が大きくなると、地域移行者数が増加したことになるので、各地域でのサービス量の増加が考えられる。

(國分委員)

継続的な入院治療を必要とする患者の割合( $\alpha$ )のところ、平成25年度から直近までの入院患者の推移の中には死亡退院も含まれているのか。

(事務局)

死亡退院も含まれている。

(桑田委員)

資料3 長期入院者が年々減少しているが、内訳としては転科・転院が多いと思う。実際長期入院者は地域移行しているのか。割合は減っているのか。

(渡邊部会長)

以前から入院している方が慢性期入院になった場合や、新たに入院した人も含まれており、総合的に資料3の減少割合になると考える。

(渡邊部会長)

では、最後に「その他」として何か議論したい点等あるか。

(全員) 特になし

(渡邊部会長)

特になければ事務局よりお知らせ事項があるということなのでお願いします。

(事務局)

本日はさまざまな御意見をいただき、ありがとうございました。

また何か御意見御質問等ございましたら、別紙受付票にてメールまたはFAXにてご提出をお願いします。様式は後日メールでも送付予定です。提出期限は、9月15日(金)までとさせていただきます。

(渡邊部会長)

ありがとうございました。

それでは、こちらで議事を終了し、進行を事務局にお返しいたします。

(障害者福祉推進課長)

次回から計画の素案を作成し、素案の本文をもとに議論していただくこととなります。引き続きよろしくお願いたします。

(事務局)

それでは、以上をもちまして本日の「第2回精神障害者地域移行推進専門部会」を

終了いたします。

長時間にわたり御審議をいただきありがとうございました。次回開催については、改めて御案内させていただきます。

以上でございます。本日はお疲れ様でした。